

諏訪地域の100年先 見据え意見交換

1000人の仲間ミーティング

諏訪地方の住民有志で組織する「100年先の諏訪の未来を語る会」1000人の仲間

は26日、第1回懇談ミーティングを諏訪市小和田の市総合福祉センターで開いた。

諏訪地域から約20人が参加し、「諏訪地域の100年先」を見据えてそれぞれ意見を交換した。来年12月までに行

政、企業、商工会議所などに

提言、提案をする予定。

同会は今年6月、諏訪地方をより良い姿で後世につなぐことを目指して設立。公立諏訪東京理科大学の市川純章教授を進行役に全員でミーティングを行った。「自然や他者の共生が重要」「二酸化炭素の排出をもっと抑えるべき」「少子化と人口減少の対策を」「人と人のつながりが生ま

れる場所がほしい」などといった意見が活発に交わされた。



岩波豊明代表(70)＝諏訪市中洲＝はあいさつ

諏訪地域の100年先を見据えて意見を交換する参加者たち

で「諏訪はいろいろな可能性のある地域。未来の1ページが今日からスタートすればいいと期待している」と話していた。

ミーティングは2カ月に1回をめぐりに開催。景観、産業、生活、福祉、文化、交通などの観点から協議を重ねていく。

(平岡大輝)